

お母ちゃんにもらふ 六錢

計 三十錢

といつた可愛いものがありました。それからまた幼児に街頭獻金募集をさせられた熱心の例もありました。又「之は私のお(小)使の一部です少しですけれども飛行機のためにして下さいませ」(滿洲の祖母七十三歳)

と書き添へて孫の獻金に援助せられた例もありました。一錢と雖もおるそかにお取扱ひ出来ませぬ。

斯うして、感謝と感激とを以て數へた總額は別項御報告の通りの多額に達しまし

飛行機獻金と幼児の努力

宇都宮幼稚園

幼児の教育十一月號で飛行機納貯金の提唱をみました次の日の朝、幼児にそのお話をしました處、全幼児が眼をかゞやかせて僕等も私達もお小使を使はないで貯金する。澤山貯金して澤山の飛行機を作つて来

た。協會はこれに勵まされて、豫定通りつづいて第二期提唱をいたし、金八萬圓を目ざしてその總集積を以て軍用飛行機「日本幼児號」の獻納に、全国幼稚園の幼児達と先生方と保護者諸君との誠心を具體化し得る日を期してゐます。幼児達が「幼児號」の飛ぶ日を空を仰ぎ、歌のやうに歌つて待つてゐることを書き送られた方が少なくありませんでしたが、ほんとうに是非早くその日を實現したいものであります。お手紙の中にも書いてありました通り「つくりませうみんな愛國機」。實につくりませう、みんな愛國機。實につくりませう、みんな愛國機。實につくりませう、みんな愛國機。

石 井 方 子

英をやつつけるんだと、子供ながらその決意の程は涙ぐましい程でした。そこで十二月の大詔奉戴日から始める事といたしました。

貯金はかうして二月二十五日迄、毎日前

日使はなかつたお小使を預りましたその日の分を銀行へ預金しておきました。獻金は眞心ですのですから額の多少は論じませんが、一臺でも多く、一翼でも多くなければならない現在の時局、少しでも多額の獻金をせねばならないとの念願の下に貯金と同時に獻金の街頭募集をする事にいたしました。

場所は當市氏神二荒神社前としました。

ここは市内目抜の繁華街を前左右の三方に控えて居りまして人跡の絶える時がありません。十二月の大詔奉戴日に先づ年長組六十四名が二組に分れて之に當る事とし、飛行機(日本幼児號)獻金募集、宇都宮幼稚園と大書した旗を立て、各兒にも同様の標をかきさせ、小箱を持たせ、七八名宛の組として四ヶ所に立たせ、保姆或は當園幹事が各組に一人つゞいて居りました。

五錢貨、十錢貨を七人居れば七人に八人居れば八人に漏れなく入れて行つて下さる人が多く、中には五十錢札を全部の兒に入れて下さる人も澤山ありました。小さな兒が一錢二錢を入れて行く涙ぐましい風景も幾度となく見せられました。獻金して下さい

る殆ど全部の人が、御苦勞様、々々々々で
 幼児へ懐ひの言葉も掛けて行つて下さるの
 で、ついて居ります私達が却つて眼頭の熱
 くなるのを覺えます。午前十時から始めま
 したが、大詔奉戴日の事とて神社参拜の人
 が引きもきらず、一時間半程で小箱の中は
 お札とお錢とで一っぱいになりました。

先生、之で幾臺位出来るでせう。先生日
 本中の幼稚園が集まれば二十臺出来ませ
 ね。僕の幼稚園だけで一臺出来るかな。
 「海軍機がいゝや」「ウ、ン僕呑龍がいゝ
 や」。等々大變な意氣込みです。

お書を境に後の組と交替させ一時半迄で
 引き上げました。午前、午後と丁度三時間
 居つたわけですが此の日の収入は壹百七拾
 圓でした。第二回目は十二月十五日にいた
 しました。此の日は二荒神社の冬渡祭オタナリヤとて
 防火の神として近郷近在は勿論遠く東北地
 方からも参拜の人が殺到するお祭りです。
 一月十五日もオタナリヤ（春渡祭）同じ祭禮がありま
 す。此の日も前回同様の方法でいたしまし
 て貳百四拾圓程集まりました。

幼児の貯金の方は忘れて来る者も殆どな
 く毎日四五圓から八九圓のお金が預金でき

ました。

かくて十二月二十一日の母の會の折之の
 狀況を遂一お母様方に話しました處、私達
 も一日御手傳し度いとの事で、一月の春渡
 祭にお願する事と致しました。一月の八日
 には幼児が致しまして、金壹百九拾壹圓貳
 錢、十五日には母の會の方々に手傳つてい
 たゞいて、幼児と兩方で六百四十圓八拾八
 錢ありました。二月八日は最後でしたが、
 とても風が強くて寒い日でしたので、前後二
 組で二時間程しか立たせませんでした、
 それでも壹百貳拾八圓一錢程ありました。

前後五回の街頭募集を致したのですが嚴
 寒の一月、二月、日向とはいへ寒風の吹き
 荒ぶ中をシャツ立つて寒いともいはず、飛
 行機だ、飛行機だと強い決意を顔に漲らせ
 て集めて呉れた此のお金、まあよくやつて
 呉れた、誰一人風邪も引かないでほんとに
 よかつたことと感謝の外ありませんでし
 た。

貯金の方は二月二十五日で締切りまして
 全部で四百參拾七圓四十八錢街頭で集めま
 したお金が壹千參百九拾參圓九拾壹錢、合
 計壹千八百參拾壹圓六拾九錢の多額なもの

となり、之に宇都宮市長が八圓參拾壹錢足
 して下さつて壹千八百四拾圓の獻金が出来
 ましたのであります。一億擧げての決戦
 時、皇國降替の岐路に立つて淨らかな幼心
 に芽生え育くまれつゝあるこの燃ゆるが如
 き愛國の念こそ神國大日本帝國を背つて立
 つ第二の國民の力強い息吹きでなくては
 ありませうか。

寒風肌をつんざく街頭に送れ！送れ！撃
 ちてしまむ！と叫んでゐるあどけない聲
 を聞える様ではありませんか。

わたくし達は、次の飛行機獻納
 金受託の報告の校正にあたりながら、
 貴い一錢の誤りもあつてはな
 らぬと、いつもの校正の時とは違
 つた注意をいたしました。と同時に
 に、全國に互る各幼稚園の皆さん
 の御熱心を、しみじみ、貴く思ひま
 した。第二回には新しい方々も
 御参加下さることを期待していま
 すが、第一回に早速御参加下さつ
 た此の方々こそ、必ずその御熱心
 をつゞけて、此の計畫を―皆さ
 ん方の御計畫を、完成させて下さ
 ることを信じ、又願つて居りま
 す。
 (係)